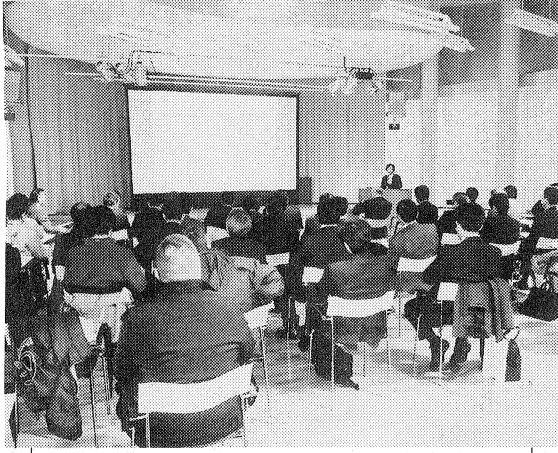


橋梁長寿命化へ追跡調査を

技術セミナーで丸山会長(長岡技科)

県コンクリート診断士会



大勢の診断士が詰め掛けた技術セミナー =10日

新潟県コンクリート診断士会(会長・丸山久一)と長岡技術科学大学教授は10日、新潟市中央区の新潟市立中央図書館で、09年度第2回技術セミナーを開催した。この日は約70人が参

加。冒頭、丸山会長が、「今後の診断技術の発展を考へることがこの会の責任。診断士に任せて良かったと思われる方向へ努力するとともに、セミナーなどを通じ、診断士会の役割を広めていきたい」とあいさつ。続いて、丸山会長が、「コンクリート診断士の現状と課題」をテーマに講演。この中で丸山会長はまず、政府のキャッチコピーである「コンクリートから人へ」に対し、「今からクレームの声を上げて取り戻せない。それよりも社会基盤整備

が果たしてきた具体的な事実を、分かりやすく一般の人々に理解してもらうことを考えることが大事」と呼び掛けた。さらに、橋りょうの長寿命化計画に関し、「維持管理手法が定量化されているかが問題。耐荷性能があれば橋りょうは持つが実際、何年持つかは分からない。データを集積し、変化を追跡調査していくことが必要」と強調。診断士会の今後については、「診断技術の向上はもちろん、集めた情報のデータベース化が課題。診断士でお金を儲けることはできないが、社会貢献になる」と訴えた。

その後、町屋悟真土木部道路管理課長補佐が「新潟県の道路施設管理」、中研コンサルタント関東支店の後藤年芳取締役が「最近の構造物診断技術」、下村匠長岡技術科学大学工学部准教授が、「材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能」と題し、それぞれ講演した。

2010年(平成22年)2月12日 (金曜日)